

## あかりこどもクリニックで学んだこと

1年 MT

今回あかりこどもクリニック（院長 北原望先生）で実習を行わせていただくにあたって、私は主に2つのことを学ぶことを目標とした。1つ目は患者や他の医療従事者とのコミュニケーションの取り方、2つ目は地域の中でクリニックはどのような役割を担っているのかということである。

7月14日に行った実習で、まず初めに感銘を受けたのは、子供とその保護者のことを最大限に考慮して作られたクリニックであることである。親も休憩しながら子供を見られるように壁に備え付けられた遊び道具、一般的なものよりも広く心地よく作られた授乳室、ドアの開け閉めがストレスとならないように間隔を広く取った駐車場。その他にも様々なところから「多くの患者を診るのではなく、1人1人の患者を大切にする」というあかりこどもクリニックの方針が伝わってきた。

実習では主に問診、診察の見学、聴診器を使った体験などを行わせていただいた。新型コロナウイルスのワクチン接種も行っているため、普段の診療とのバランスをとりながら患者の待ち時間などを調整するために医療事務の方と先生方が連携を取り合うことが重要となるようだ。あかりこどもクリニックでは、どんなに忙しい状況下でもコミュニケーションを絶やさず互いに質問しやすいような環境づくりに努めていると先生がおっしゃられていたが、その言葉の通り、現在のコロナ禍においても適切な連携のもとスムーズに診察が行われていた。診察の様子を拝見していて、病院内に限らず車内での診療を行ったり、予防接種を受けにくる患者とその他の患者を普段から完全に隔離したりするなど、患者の親が安心できるような環境づくりに心を配られていることに気づいた。このような環境だからこそ、安心して地域の患者が定期的に受診することができるのだろう。

また、あかりこどもクリニックでは新たな患者に受診してもらうために広告を出す、というようなことを行っていない。クリニックが目指しているのは、大切に診療した患者が繰り返し受診すること、またその患者が口コミなどでその様子を伝えゆっくりとその輪を広げていくことである。クリニックを継続していく上で、新しい患者を確保することは大切ではあるが、患者に対して丁寧な診察ができないのでは意味がない。広告を出さないのにはそんな理由もあるそうである。あかりこどもクリニックの温かな雰囲気の原因はこのような、患者や共に働く人を思いやる気持ちにあると考えられる。また、あかりこどもクリニックが掲げている目標の一つに互いの生活を尊重すること、というものがある。医療の現場は人が作り上げている。そして人にとっては仕事と同じくらい家庭や自らの生活の質が重要である。自分たちの心身の健康を守った上で地域の患者に寄り添うこのクリニックはまさに地域医療の理想であろう。地域の中の診療所というのは、病気を診るのみならず常に患者の心の拠り所となる温かな場所であるべきだということをこのクリニックで学んだ。

最後に北原望院長先生をはじめあかりこどもクリニックの皆様には大変温かくご指導していただき、心から感謝しております。あかりこどもクリニックのますますのご活躍と皆様のご健勝をお祈り申し上げます。ありがとうございました。